

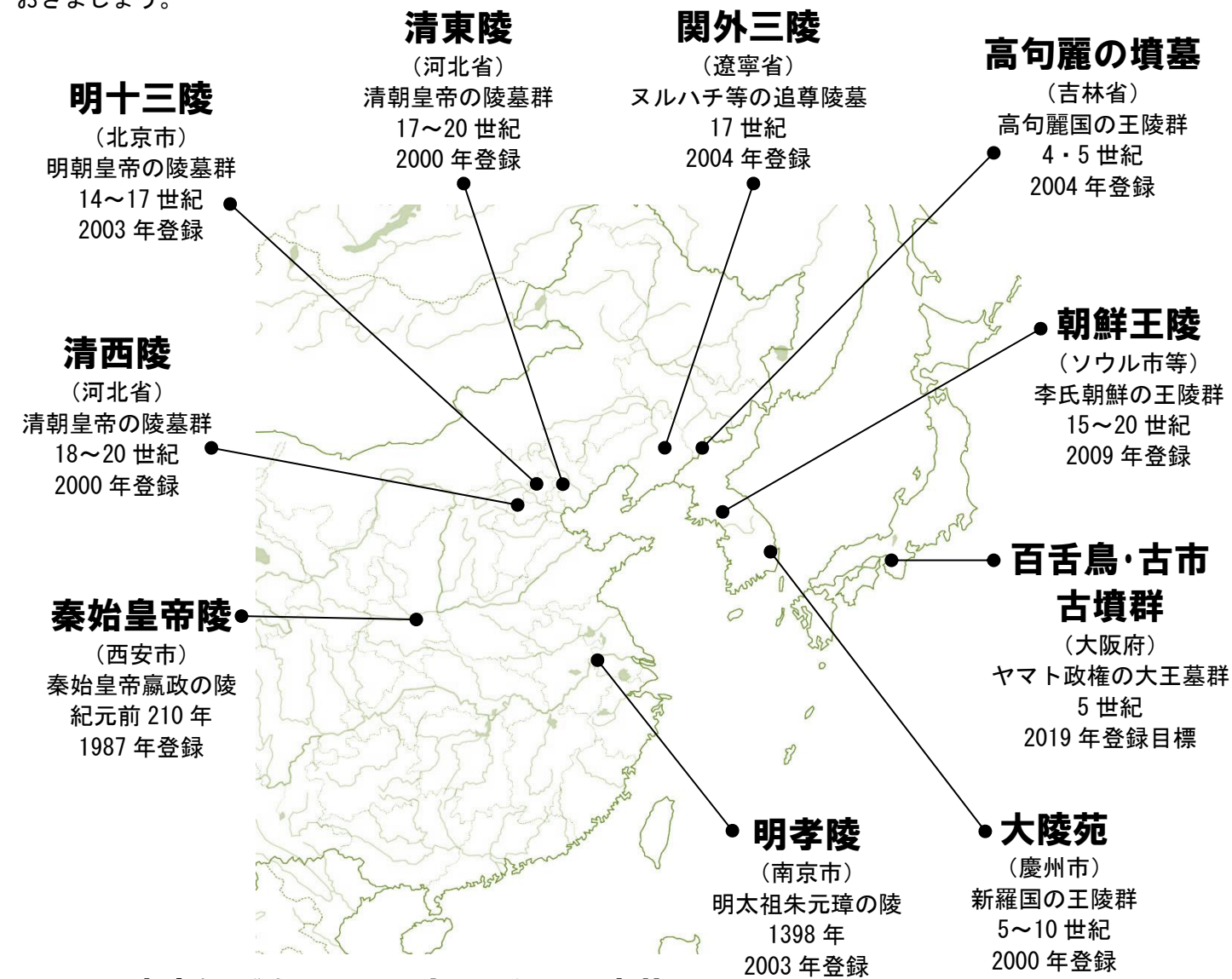
# 世界遺産に登録された東アジアの大型墳墓

## 一環境整備の前例と課題一

阪南大学国際観光学部教授 来村多加史 (きたむらたかし)

はじめに

先週月曜日の7月31日に百舌鳥・古市古墳群が世界文化遺産の国内推薦を受けることが決定し、大々的に報道されました。世界遺産への登録をめざして尽力してこられた方々には、喜びもひとしおのことと存じますが、これからが真の正念場です。2019年夏にユネスコ世界遺産委員会で審議されるまでの2年間に、よりいっそうの努力が求められます。世界遺産の登録推進事業は観光事業の一環としてとらえられがちですが、主旨は遺産を守ることにありますので、ICOMOSにはその方面のアピールが必要です。遺産保護の方面における隣国の事例を紹介しておきましょう。



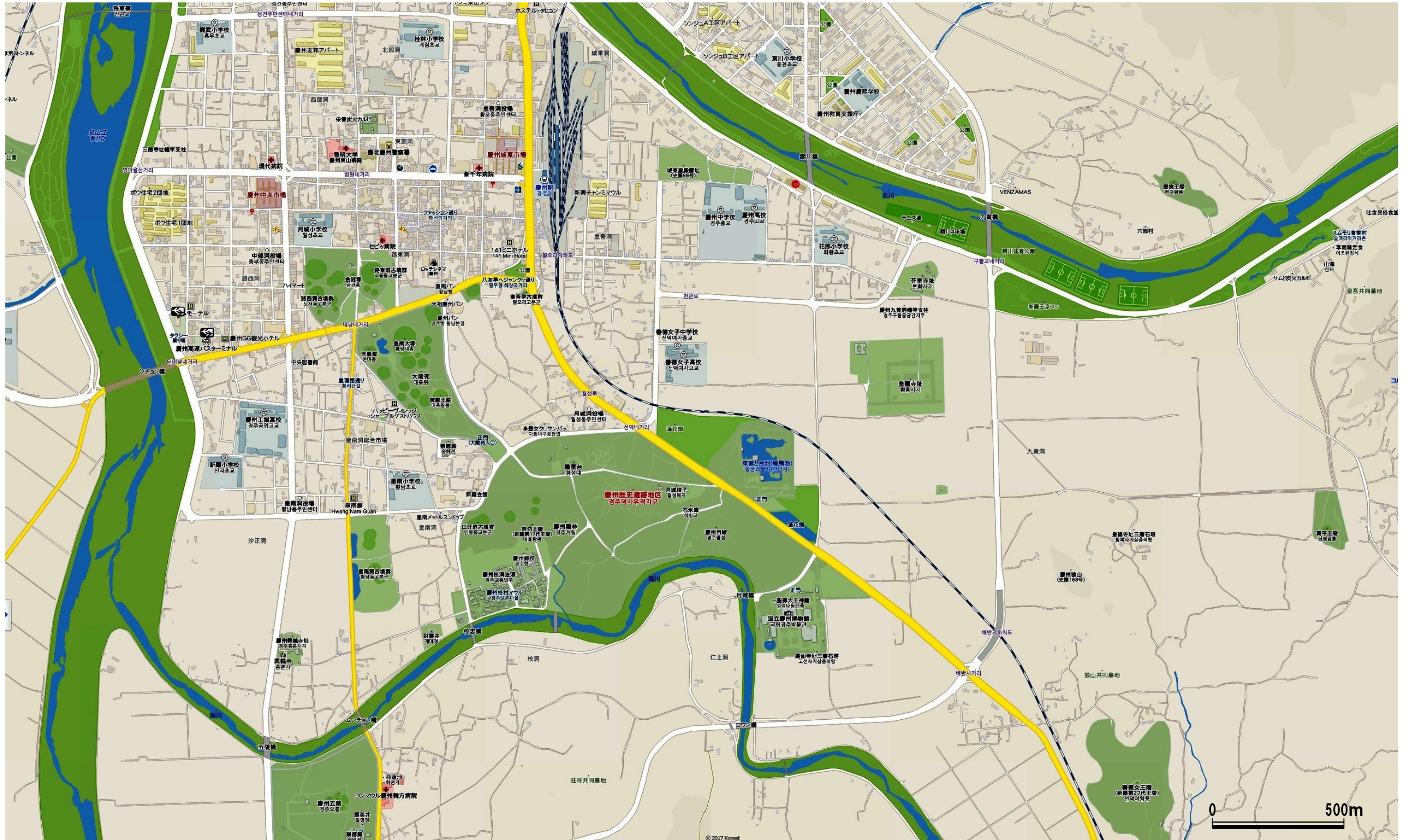
■世界遺産に登録された東アジアの墳墓



■高句麗の王陵（中華人民共和国吉林省集安市）都城も含めて 2004年に登録



■新羅の王陵（大韓民国慶州市）石窟庵と仏国寺は1995年、慶州地域の陵墓や都城は2000年に登録

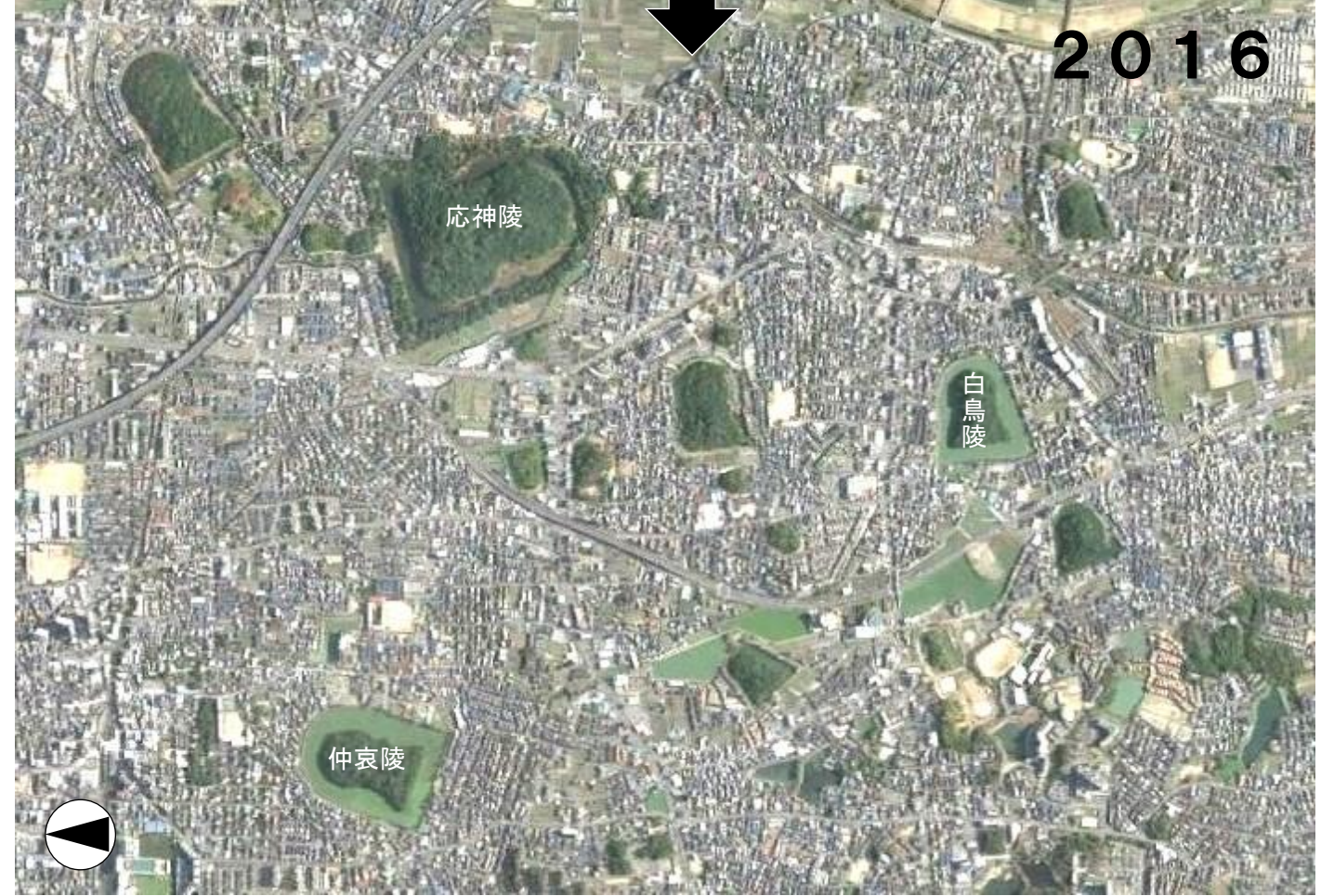


「韓国地図コネスト」より



百舌鳥古墳群（堺市）

1948年の画像は米軍空撮（国土地理院）、2016年の画像はGoogle Earthより



古市古墳群（羽曳野市・藤井寺市）